へ13
2913
6

へ13
2913
6
特
昭和九年七月六日
購求

貞操婦女八賢誌二編下

江戸　狂訓亭主人著

第十一回

勇美姉妹會本郷山
為盟友青柳爭錦旗

此時於袖八駕籠の中に重八三六於張ホゲこぶひよ告る非道の
談合性ふ咲くあきまとも我をこもとく居りしがこと色
横ま恋ひしる不孝の罪に斬まぢれあざむ〜と後悔しても
刃程よ〜ねしめの縄目のこと猿轡ぐ〜ありけるが
彼三人が活くく結らふいとあに中〜とにを刻こる手拭を命ま

めけく食さるつくりもどのくらくてせ〜無をあるくと轉びのぞる戸を
駕籠いまりめらまてる縄のまく近んとるを彼方よりちくとと
看止る悪婦ふりけより帯を掴くりもどー「コレサくー」お袖
がう余斗みこ成せびといふ命近く何知(徒)ものこアハ〜ゆま
見分大の男でさくまもく押くづけるお張さんど恐るく世話をや
ゆせるとあへをもの通りるくきまふョ。ノコレ極を郎よ逢くふ勅
をするが近くちどやア奥ら命をてのものどもどもあてるやア
めどり合ともあるアふくび三方大塚ふ浦く知(徒)とのの人を待くあ
まるのものくもあ〜まく拵女でもくく看急(徒)極を郎ど(徒)の男ハ

まんざい毎晩抱く寝くまるせ。そコレサコウ代よどり張くを色ぶとも逆答を
ちくのくあるりどそうでどざいまもとろどーくもふどーくのふのるど
とのふ義剣く叶酒を天せるうあのころふろ二ウに一ウ押くづけて舞
折損のくてびまもうけくふ十両ぐふせくーくとまくく何所ぐ
巣成駕るぶんのとどサア駕籠があくくもかきてどるー拾方ぐうの
四〜章の毒ぶ歌通ーー芝浦金置本まくくりもどりあどくも徒
ちやアあくねとあくまもくお神ぶあるどりくく小児のどくえあふまもく
をどあるふさんとすまふお神ふこ成ありまくひ者をのどまんと右方り

性
引
「そらあくしく性のこころの女児ごとまこうく安ごとまきく
神宮屋」出遠入しく如くさあの世持備さあのと室礼拝をしてねと
の八始終仕業風表ようだりり全拝今日まぐぐんくと河剣を延
しく居るとのも思の外ま用心深く奸智こみさま婦の寿賀
をまゆ月日張るるうち梅を幸の一件ようようとまぐこぢ付と
のごとのつことろが安ノとけく多くするまま性もしめサア表地紙
ノ朝ごぞとおどしく無理ま得心を身をうるるづき内心ちまえ礼
まし黒髪をむしりちしく行ま極り打すあねぢすあさんぐま
さいるも非ろのお張が強敵お袖ハくやしさ幸さに変を限りと叫び

ぞも人里遠き丸山のままこまこ紙をちのづき既ま袖ハ紙宝紙打まく
アット絶いる時しもわを本ま之の蔭ようお張を見ぐ打卵ま磯の
眼法ぐ神ちひ宮ぐ両眼ようり火の知るぞり打尚ようまるしま変
とのろともに尻居ま動と知るまぐ本ま紙めぐりく変くとあうハま
いる一個の美人今眼ようる月も羞く雲ま八ちんの紅色練
紬の帽子を額ま当秋の七夕紙加賀染ませ金巾本縮の振袖を
着くま紋ぐしの帯紙結び錦美の紬の甲掛御半紙ま紅の縮緬
の湯巻紙ま紙ぐ言く引上げ、素雑の紙をちとま紙しめ左くまに
すぐさめて管笠右手ま杖旅姿とまんえ変ぐちやしくもまこやしくしま河ま

お張八幡紙をげきしに共着長襦袢を脱しこの敵八こまるそもいろは二八
わかりの虚女ありいざしらず出動せば立上りんとするとそろ紙又も
打出せば手練の小石ちらびこの面ようち射くるを彩をきくくよりめくひな
よ虚無飛者のうけるごとく踊りあがりてお張はちまち第辺へ跳ん
しく凡おもやうは第邑より倒まつしお神を抱おろし延髄丹を切さく
呼生ぐ〳〵「噛姉紙しーるお深いのうお神やアリイト夢言く
呼ぶそ
ほ言くまくやうくよ顔生まる彼お神その身を抱する人の姿
をんかりくいぐしく渦鬼つのく言葉もかし紙と走ぐのくよく煩
宵よ浅間の火焚あるう立出く両個の宮奴よ蜀江の綿の素襖を

かぶりし神女ようく仕ぶり生附お神八拝殿よ在くくらしく笑人
ども笑いまもの縛り縄猿縛さ縛さそのの去ともかるぞ
しく、眼あやしき綿の袴をのとおるとも今ざりしが今朝迄く抱
さま我身のてうり梅を綿がくるぞ無念豊稲の雲霧虚女如
神よおりひくいかう「虚」ハイ「虚」さぞ合点
のかぬてくおりぐくあらうがてうしハ其方の綿ぞ「神」エ「虚」そろ
くんのつもぐ所こ妻撮取奥神宮屋うよそまくん先刻ようを
聞しくおりてまど牲ぐくとおりのうち駕籠やが毒酒よあるまでく
おりを張き悪波女の奸半すでよ其方も危ういやうよおりてま位く助命

ごとのや兄えくねるであろう神宮屋とのゝ巻父母そなたの実の兄
さんハ水川の神職典籍さまぐくあろうぞの（独）アイ相違もないそうしの
実親そうしてそれまでいらく（虚）姉まちがひハあるのう（独）おろっ
ちうございまス（虚）へいいひるがうまでご縁ひのそもくく
そなたハ兄弟さんの妻獲母ハの亡後神宮屋のもとおとつさとのふことを風
のさよりよ受くまどるもなく古郷水川の大変親類一族ちりぐくにあり
紛中に此身もそなたども弟よりてしの母人と不和をそなたこの母ハのとッイ
考伝もせうんぞ血すぢの縁ハ切るいと見えく今嫁のこの秘義姉ぞすと
もうしぎの再會さと母よハ教同志とのふても一ッ姉さんの様子ふくぬと

義母ままうよ命の源とする秘義を見て天推ましこの女抱をもそな
ぞやまぞ得ぞゆるねうへトのそくく秘ハ新あくあ（独）子をもてうひど
ぞいまあ日ごろ意しのくとちうくく注ておあくひゃーさの姉（ぜんぞ）ぞい
まぶつまとふうましこの様子。義でふのうと存ぞ（虚）まぶヨぞうぞこそ
ままくしの力よあうくぞさいまトうまもまさ滅ぞり虚女も滅
ぶにうまてうーぞそ身の念秘合ぞ若を父の仇とー移らふとその母者を
うくく弟御をやどこー神ト仏女真ろと名のるる細ぞ落ぞ、物語長
お様も今宵の秘義とちぞめ聴くハ梅を弟ぞこ綴ぞうち
ゆ一真ろの所持る錦の旗を彼梅を弟よ送りのうくく古主若

する豊後の国さげく三郎殿と申せん殿ひとりの姫はよくきこえけどまゐらせ
こえ給ひしかば「のうち神七年八年の間ばかりは逢ひ給
ひもあへぬ程にてしんと姫を恨むべくわろうけまどかうへまゐる御の縁節さん
の殿こそそうし合が若どの殿おんこそ殿の品位ある人を
材く後梅を御子波しと申すづそ是ちでは姫が備く申義殿とげっと
い神へこのつともでいごいちばんその縁が通倉へ家ちうざと梅さんだうり
の主姫のお行さんとのふたの家名も変ちゑ殿さんの落度ばやゆ殿さうぶ西
とぼ人きしへとうらふとうそのお縁を「りのとのるも殿ばやがたまでば
男の為だうりとこそ後ぼ逃ふるも無縁人間ば節さんの仇をうまそこの

姫殿
姫は考ひ行さまる殿方のうまを方の為ものも実親の敬を計ば殿と義しの
とうふ情男が三郎しと落ばげさこそうり神宜のとトのうさくお縁を理は
ふうこそ殿ものを言葉ものく源とうとの殿ばうくしが難をあげ一
あやまりきしふの姫へさんのうこのうの節さんの敬を計とうの殿と義しの
天出来ものものとのふだうりの八方の家無まこの方の例のとヨイ遠ざ
うくこそまこと同義実の殿申さんのこと成ひ子れこのうのこのひとけ天だう
で逢ふの主姫と我義の姫と覚悟しせ方殿の縁の家を更お使こそ
上まるといかうりこそく仏抱の例まこのろこのの縁と情子投料
てこびまこそのうんとうしけまこびまのうこの抑とのの方のうこの

あることにてとろ紙にてまるこしまるこしにして幸とのこ中
なるものにて生方家庭にはけ[illegible]も南こもの面くの生質落落なる
いつでもうつくしき親のしたがひ[illegible]なる女人の
行末成長ふ志婦の雅のことまぐくも男の面存八操のきびくしくまこと
なるのくせに生方の雅ひもつぐ分のやまも空面今の半時ハテぎつぐ
と絹よりも紙高く紙幸よりまこと山附も青柳く梅幸郭の彩よ
ようりくに俵屋もおぶるよ行をあづかりこ今日ぞ湯が湯
幸幸なる富士浅間の社頭にあるく湯立神幸と奥紙ハ七日界
天の風徳あり雖よ化女ようとしてハ洗魚塩ノ明月蓋花実よ池

世のうき人ありとやうくあるく奇ハ紙にてふ紙ようびとあるを今朝
しも来塩をうでしるよ注毎の尾の密幸をうけて汁の塩まぶりしが紙の
外よりをどりて小岩ものりしてうの八日のうまそこいと洗しく塩のあるく
あるんうハ紙にまの塩のるべきよ大丈夫よまるる刻幸の紙屋をうでで
山紙よも林の塩を面へのり本幸蓋ぞ幸ありるとよ真弓ハ英勇のうも
弱る女の情婦を不便よ思ハやりるかきんと性質ようのうに中ようを絵せ
お張ようくに伺ようう真弓の所持ある塩中の御雅ようとうを紙ハ生
をとろく塩通ハ歳ようこ投ハ紙ハ御雅ようとうと解ハ月に
林く錦の光りも抽ハ紙ハ変ハ社ハ豊後の御家の宝 織

いづくにか雲に竜軍の錦は押立てまゝ潘統が天の勢ひありと見るよりも
かの蜀江の青き錦の旗なびくかりけるうへ真弓八郎こゑ振
向うつまの青柳八郎はたとうんと飛かるをりしも名ち雲間く月はかく其
ひきさゝ蔭りしを西のうつぶりとあるのうつぶ見元木の桜岩角凸凹の
ぢーよりんんよ切所難所よりひきべくぶりの働き自在をうきばうとうきお独も彼雄とや
八郎ハ人ハ波ひきくきとあまーあかり姉よ方人うさんとうきで関路
とかりしーとかるもぶ敷も味方も義別ゑ右よ左りと手ふり兵法まる
遠矩く縁ふ鏡ふ錦の旗そきもとも和ぶぶまま柳が下ど踏生を見ままろ
いづくにか八郎ハとるもぶひいろくけるも平呂の南秘宝我けるきく即死せり

真弓ハ独八叶ぎよおどろき業ばる姉妹まゝ〳〵うきまゝ木やゝ木義
めりそいく変ら摺遠ひるそを居をきとも和ぶで真弓とお雄ら合ぶぶ
実あり系統練磨の真弓の鐵堅呂の虚女のお雄ら義八ぶ見ぶ合ぶ
やきろうむざんるるの左多の旨（生死も重辰落ぶりける打ぶ月八光と
雲ひるとひそてもきとうり木の下ぶも明らよ照せバ生弓ハ青柳と兵乃合
せく驚天ーゝさそ八姉八あまろく体益落ぶひ天ーの（生方八戸田の乗
合ぶ下ひ義ぶ乗ぶども真弓ハこそぶ雄ぶ義ぶ荊の藪（飛ぶくぶも
義義ひくーう敗遠岡家ぶとあくぶ宮易の敷まあぶるこを和よ和ぶ
柳もあひそきくハ遠ぶりう必竟お雄ら生死ハらよ美義ぶう分解ぶ

第十二回

救於竹青柳戰田野
烈勇於亀赴相模路

そもそも再説青柳ハ本幸丘をうち越えて幸塚へとぞ急ぎける彼こそとかの生天皆五くく氏
ぞうそ浮世の汐辨宮あぐ兄が常白まと彩こそとかの生天皆五くく氏
ちりぬくそうそうね業てそあやーけまこ義を結んぐる梅を郎ハ雑の故ままく旅の宝
今ぞ何如と在所も知まこ尋る者もわこざりけ我服ま蔑今宵
の出舎さうとく雑と着ぐこもれ損ーるのこ今で固わる彦三郎舎
神女戸田の渡ーま同紅ゆーこく倶ま満化寺まいてりーこど彼ハ寄柳ま
蔭もなく我ハ絵毎の尼の為ま宿固の結び城ゆー身を主べき神ぞ宮ど

いまぐそその河節ちぐくーこく同志の集会ちりぐーちりとぐども彼神
と女ハ再度の対面せーうひゆく梅を郎のこぐゆる絵の縁を事ひく歌と
どうりねまこそのそりーも同ど雑成れんと年ーハーーを神宮庭のお社
に仮こうりまも梅を郎ぐ由ま成いどこそありけるもーこうんゆる
七まこ面ま化深者命を落ーえんといこうーき處女にこそと思ひつぐけく紡
ぞ兄ハ二つ上りの礫川豊雑成濡を若清ゆ右ま廻り左りまぐ今立大
こうりもせーうこ知のち社の浜世形の極楽ゆ成南さーて幸塚の里近く来
ま二町ま左りこざりーー校の雑成遇る杉ーも端息くくまるめ行りーが
踏せまけこべまま柳と丁成行合ゆ人合ま一緒ハどのう緒ま柳ま

こゝ〳〵ト汗衫拭ひ涌息つけばまも柳ハ「マア今御分左衽の周章さく
何処〳〵のゝ「ハイ何処とのゝく尚如もう遠まきく山所まで来りまし〳〵
かゝさまを達うくハちさしがまうせよりさ〳〵まをう「ハテ合点のゆゑそのゝ
遅まきく来ることの何でゝ部門よ来でもあるのゝ
をてゝあ後る付ゆゑッと戸塚大六とのゝふ意地ゝるとのゝ大勢の部屋衆を連
くゝどゝく部門中一統ゝどりちゝ〳〵と殺ゝまし〳〵統〳〵ゝ具形ゝどのゝ種
倉〳〵密通〳〵ゝゝ門ゝをゝゝ〳〵ゝゝどゝく宮ゝく宅ゝ深ゝく居ゝゝ相違
ゝゝ向様〳〵ゝと部門を折ゝゝゝく責ゝゝゝく一向ゝゝ部門の者
ゝく俺ゝゝゝゝゝ領ゝゝ権ゝ戸塚どのゝ小者ゝゝく力ゝゝゝく文庫

蒼とも押ひくき旦那ゝどゝゝ情状〳〵く私殺ゝゝく非ゝの仕方ゝ
文ゝ行ゝゝ義縄ゝく殺所〳〵ゝゝ階段ゝゝ〳〵ゝ〳〵で私
ゝゝ逃出〳〵ゝ義理ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ人〳〵ゝゝ事ゝ他ゝ生ゝ
ゝゝ手淫ゝ領ゝの勢ひく本ゝゝ落度ゝゝゝ〳〵ゝ
くマア何ゝゝく近出〳〵ゝ〳〵ト面目ゝゝゝ鍬八ゝ顔ゝ汗ゝ〳〵
地ゝゝゝゝゝゝゝ〳〵ゝ柳ゝ後ゝゝく仰天〳〵
〳〵ゝゝ部門ゝゝく旅行ゝゝゝ後所〳〵捕ゝ「ゝゝ
ゝく私ゝゝゝゝ深ゝゝゝ「ゝゝゝゝゝゝ助ゝゝゝ極ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

大六ゝ姦行非道の曲者田忠頼主と主を私欲と奸計支配の人を惑
ものひとの名を遠くもあるまじきこと地頭の威光やとく郡主の留主に
小女まくいめくり移ぎわろうろうドレ主付く兎も角も留主居
ものを言ものくとく成果報くハ主ものせよさ〜當こ旅行
さんの大強成すふ事をゑト紙八とゆそ〜主く郡に協まハ既ま郡付
ゝ元上るゝ配さ〜くく実ゆ〜とふ軽率等ゝ張番ゝ〜ゝ主ゝ
ゝ柳ハ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

ぶんとまる様笑ひもせず耳よりに寄せ獄八が呼び一方へ落ーやりその外八
直地なる塚の完に如りそを行が為よりを金銀銭ぶぶの出ー才を源さまるみよ
うきうと踏ー遠ーく支塚村（支郡）なる左ものの数より投ぐーーうの縄
に引如さまく倒るまぶぐらまち知る数多の組み中仏も戸塚大いを扇
づ寄ひよに矢仏様ふくこ笑ーよきまるまる柳が戸賀様ろうぶ好ろ者ーを完
いにおかりうまートひつこを様引ぶを世ものが邸完ーを行式義同所の
神宮屋ろ虚女お袖ご湯ゲ場ー湯ろの神事様拝せんきくお張と縋よ
出行ーゲ女様ありても湯り事ぶ終歌紙見待ーまつ幾ぶ小者を変
らーて便宜様笑ぶも嘉ぶりその事伝ぶ笑ーうくきくする見ー歌

明ーりのぶせーぶと様合まる仏下女お袖ーお踏ーまりーー
お人をつーさまくものうお袖さまーお人ーりまるまぶぐのませんヨ
「ナニ」お様ぶくも湯ーねと意をまーりどのこ様ーく雅歌ーう紅志
ー居こ於けのやまるものぶサア湯ーねーこの様ぶやく様ハイ様ーりー和
まやんーう昨晩ハーまやんゲ今様まぶぐお湯ーうまーうねゆ志のやく主
仏様ハーーこと存ーーく中出ーまーーこの程お張ゲすーの仏より七様主郎
の踏様様ぶ様出ーーーるれーうぶひーく様主郎も豊主郎の郎主ーう
と居ーぶるーりぶ出ー陽郎ーるまぶお張ゲ仏異人名号ーーーこーうんとくく
主郎ぶ様ぶ様踏も実ーうこまーよーーーー郎内主ーー主ぶお様ゲ異様の

いろは　元敷も亦々紛失しく金も不足すしてすりけるに男の疑を入
出ずるに相違なく梅を帝も驚き堂塔寺も仮の祝儀
仏の名を出家して稚を合戦掠め奪ひ逃げるのあるんまが
堂塔の宅に人を殺して梅を帝の財宝を同じ世上一人の法師が辞を
ときも部屋を拵設をべしと辞義をすべ　るとて此歌の唱ふ
とつざいろく　おんうんぞ　つま　歌源と堂塔の宅を開所
大六の自分人数逃げ　ゆき　ぜんぎ　ぶっき　ぶん
部屋のこと出ずるに梅を帝の財宝も拵義ありしよ　くしく病きと云
いん　ぞう　ぶん　うもう　さく　せんさく　そのや
人備り実に以ての亡命せしに此歌のさぶらふ知合ひこと寄撃の宮
ちう　ひと　きょく　ものぎ　よげ
中ありきその部の食客を柳と虚女ありしが女に奴童見物

ちくしのをしめるを竹取すくに竹の処に落しく拵のごとくと
きどその身八世間にくとくとくとも嫌疑へ今拵へつるとてとりまとめ客
ぬ　むすめ　ひとり　ちょう　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
奥の姫姫ならび大六梅の部に頼を沙汰ありと家宝
ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
我ありて新よりきとひくさとる百子ありしくてそ風流ありて神宮
ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
屋敷婦人に事我宮くしうの地とくに袖も実のるるに男の外よ
ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
歌　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
幸ひの梅を帝に我罪を落しく大六の拵へ金を送り此歌のことを
ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
と稚くを辞を拵をもとも面所を住居を宅
ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん　ぶん
於亀とのあり元八真間の郷士を古那の三郎とを人の秘義の

虚無なりしが舞子になりて世渡る父なき後のことなりそもそ
いとの薄命なる尚才ろく無にろを十二歳まく父を亡ちとく
東
嘉
お生立なりお竜が母八千葉の浪人利根の七郎と云者の妻
彷彿とのひとり七郎支婦零落しく補助よ流浪し真名の在
所よありけるが父七郎八世渡ちく無ろ法業もなりし我を吉那の二郎
より七郎く彷彿我多ひし無もろ細工物拾り無ろが今とつ
ぐん為ま二郎よ彷彿美我事ひ世よ四ろ女とろいでとく吉那の尼女と
ありけるが勝美を原素烈婦まく
無つげ我し男ろくんま無やし家を
とき
時節もわくんま彼自居易の云ふのごく百年の若楽他くよ
女の身ことを悔しけるとその身を涙く和ひりかくく彷彿美八十九歳の
ときこ二郎が種紙出産せしが男のごきの無ろ
ひとろ
ひさきで彷彿美八よろこびぜめく男ろ我ろいでび京新無
ちきころくんま幸ちきこと歌ひりかる勇ま
世のにころ我ひ終ま産後の悩ことなり医療のを毒我ろとく
ども潮こに酸りのき乳房も綱りく出ざりけるび里をおもくあも我
あけその年八十九歳の正月の中旬お竜をうくく引ぎきこる大病
なりしが一年ちくころびくその十月の下旬末枯し宝きその身

たゝ[illegible]世話ばかりしてとゞさくまつさんお亀を里にとりて石渡の今は
とゝふものゝ[illegible]様方の出生よて面倒みの親方ありしがたゝ
うりて又しらぬ他人の[illegible]の出産したる紙うしろ[illegible]乳にこゝろく
ゝりける四志幸ひお亀ゞ里よりとりていとをしくこゝろ[illegible]がある夕暮よ旅
[illegible]の母親[illegible]ゞ今若女婦人出[illegible]「やれ〳〵マア
こゝさんハ又しらぬ他人でおのゞきまてこのふゝくお出産まして
「ハイすこしよくありまして」こゝ[illegible]のあの逢の紙しのしこゝよりく
のことゞくまりまして「ヲヽ〳〵そうでゞゝまたマアく〳〵こゝ
「ハイ〳〵おまへ[illegible]ましたとこゝ[illegible]お亀よ逢の紙ありこゝ

ゞく「ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]今乳[illegible]すやく〳〵とれかゝるとこゝ[illegible]
〳〵[illegible]ハこゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ありまして[illegible]
おゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ありません
ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]お亀がうをつきく様ゞと
別しまるとこゝ[illegible]ん[illegible]マア二三年ふるこゝ[illegible]ホゞとう
しゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]抱
こゝ[illegible]限よ「イエ〳〵ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]
[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]
の出産誠母の[illegible]の[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゞゝ[illegible]

きこのヨマアどうぞそさやくわの児の無我おろんせるさこのみどんあふ有り
まーーこう業ーらまーくうりません　さぞ〜〜さうそこぞうのまーゆう
サア出掌ーまーーこのやうよ大きうう茶てこぞうのまーと抱き起〜〜く
いどうする星の母親実の母おのめくこと我知るようーもいのうざるべきよこ
ふーーぎや傍美が抱べくちまちるさもものーーげよ法いぶ我美八赤子れ
仮もやで義主我ふくむこの形勢今吉八風と次のるより傍美七見
主べ絵とやう教すーくくこうく傍美八ふ我抱あげくも
すりあどうのこ機嫌ねんくくこうよ念ごろにとさきあき無我きもどと
うち振あてふむせやりさも義主げよ有えけるぶ今吉主婦八父母見

こう業後ーーまあせ湯我こうーーせやくく黄泉の山業でもと孤立ぶり
あるこきこそうちときかこ抱せーこの程よ傍美の方まくこの屋
西戸と縁あどもる中化傍美八傍とうこ抱せーーこの程よ傍美の方まくこの屋
がうや母八モウこと限ぐく達ともあうあのヨ新我おげえくねこのや
といふもいふもあぐうんせあきこひあの業と知りあぐうもあるやら主我
悪業のきぐあも縁も今きまくこうあの母の宮業ぞそのこふどう
ぞ仮もやで主月出世我ーーこのや母主くまこ祇あん郷さん
心も薄い縁こと主まくく郷くくこぐう業通ゆあよ今知くくあれこ
ゆこーいこきこの約すあ山郷の爺さあ姥さあを大事におりやく威八

[illegible]女の子にもせよ家柄の子にて吉郎の二郎どの母の素性利根の
七郎兵衛殿の娘第八生方の一人この身も素義の義ありしくちくと
[illegible]今吉が[illegible]男やう母ゆさ[illegible]
[illegible]の第八十九尼年[illegible]少しの中病まぐるハ[illegible]
[illegible]モウこまりふ潮くよい[illegible]を待む
うりその[illegible]の壮健さ[illegible]水源[illegible]成長[illegible]
[illegible]の結びまでがこうじく[illegible]大病と[illegible]
と浮くくまます[illegible]その[illegible]人を待[illegible]
[illegible]今[illegible]中病まで[illegible]

その中[illegible]今世[illegible]右左りすぐるお[illegible]
[illegible]門[illegible]一間の[illegible]
松風そうくとのこさくくも初歌の[illegible]今吉[illegible]
中[illegible]
[illegible]の別[illegible]
[illegible]実の子[illegible]
[illegible]の婆[illegible]才智の[illegible]実の
[illegible]親[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]不其妙[illegible]と撫あつ十三才まうり〜こゝ丈の三郎[illegible]
[illegible]く遺憾の心上河[illegible]く亡母傷[illegible]の素[illegible]雄[illegible]てう憤[illegible]
る情慈ひりく男子[illegible]等しき三男をこの丈の敬[illegible]討んと移ふ念[illegible]
[illegible]ることもなく十[illegible]才の七月下旬その[illegible]のある[illegible]そ里親[illegible]影[illegible]
こゝ[illegible]遠[illegible]さ〜く先りしが山[illegible]神宮[illegible]郎も神の[illegible]の[illegible]
よりまと相撲[illegible]きしとぞ必[illegible]亀の丈[illegible]
丈八とび〜ぞ敬とゝ八何者ありやと十三回の[illegible]
輯と讃く[illegible]拝ひる[illegible]